

テストのための勉強方法について

1 はじめに

私が担任したころ、自分が中学校・高校で実施してきた勉強方法で、「これは」というのを生徒たちに紹介したことがあります。テスト勉強の方法をクラスで交流したこともあります。効果的な学習方法というのは、ある程度、示すことができるでしょうが、自分にあった勉強方法というのは、やはり自分でやりながら探していくというのが実際のところだと思います。私が行ってきた効果的なテスト勉強を紹介します。

2 効果的なテスト勉強

(1) 漢字、英単語、理科学用語、など暗記するもの — 声に出して言いながら紙に3回書く —

暗記するものは多い。暗記する方法には、見て覚える、聞いて覚える、言ってみる、書いて覚えるなど、いろいろな方法があります。以前、生徒と学習方法の交流を行ったとき、暗記すべきものをトイレに貼っておいたというのがありました。トイレに貼るべきものを作ることで覚えることもあろうし、トイレに入ったときに必ず声に出して読むとか、暗記できていないものを確認するとかいったことを繰り返したりしていたようです。

私のお勧めは、「声に出して読みながら3回ずつ紙に書く。」ということです。言ってみる、見て覚える、書いて覚える、聞いて覚えるといった要素が含まれているからです。

これは高校の生物のテストで発見しました。あまりにも覚えるものが多く、また、時間も限られていたので、どうしようか途方に暮れていました。とにかく覚えるべきものを3回ずつ紙に書いてテストに臨もうと考えました。暗記できているかどうかを確かめる時間はありませんでした。テストの結果は90点くらいでした。これ以来、暗記ものはこの方法を使っています。授業をきちんと受けているということも重要だと思います。

<暗記するコツ>

漢字、読み方、もう一つ暗記すべきものをセットにして覚えると良いと思います。

例えば、細胞膜を覚える場合、「さいぼうまく」と言いながら、細胞膜が細胞のどこにあるのかをイメージしながら、「細胞膜」と漢字で3回ずつ紙に書くのです。歴史上の人物なら人物画像(挿絵など)を見ながら、人物名を声に出しながら紙に書く。歴史上の事件なら、どんな事件であったかをイメージしながら、発生年と事件名を声に出しながら紙に書くという具合です。

(2) 数学など、解き方を理解するもの — ワークを3回する —

数学や物理などの問題では、解き方を理解して、実際に解けるということが必要です。こういった特性のある教科ではワーク(問題集)を渡されることも多いです。なければ、教科書の問題を使えば良いし、問題集を自分で準備してもいいです。問題集のことをここでは「ワーク」と呼ぶことにします。

1回目は普通に取り組みます。答えはワークに書き込みません。計算など解き方を含め答えは別の紙に書きます。分からなかった問題・間違えた問題は、ワークの問題番号にチェックを入れます。2回目はチェックの入ったところだけに取り組みます。2回目も分からなかった問題・間違えた問題にチェックを入れます。3回目はチェックが2つ付いている問題に取り組みます。チェックの付いていない問題は理解できている問題なので、取り組む必要がありません。これにより自分ができていないところだけを学習するということとなります。たいへん効果的だと思います。

実際のところは、2回目もすべての問題を行い、分からない問題・間違えた問題にチェックを入れます。3回目はチェックが1つでも入っている問題に取り組みます。1回目で解けていても2回目で解けなかったという経験をしているからです。十分にできていないという漏れを少しでも防ぐためです。

生徒には前者を紹介します。この方法で点が取れることを理解すると、自ずと後者の方法など、自

分に合った方法を見つけ出して、取り組み始めます。

ワークには暗記ものの問題も含まれています。暗記ものの問題も同様に取り組むと良いと思います。

この勉強方法は、高校で数学の実力テスト対策で見つけた方法です。当時、数学では実力テストと称して、1～2ヶ月に一度、問題集の中から問題をそのまま出すという形式でテストが行われました。勉強すれば点が取れるという仕組みです。問題集に取り組ませることで力を付けるというねらいがあったのだと思います。この勉強方法でテストの点が取れることが実感できたので、これ以降のテスト対策にはこの方法でずっと勉強してきました。いろいろな問題集に取り組むという方法もありますが、一冊の問題集を何度も取り組むというのも良いと思います。私が試験対策で一冊の問題集だけに取り組んだ例としては、大学入試(一部の教科)、教員採用試験、管理職試験、船舶免許試験などです。

(3) 練習問題と答え合わせ

問題に取り組んだら、すぐに答え合わせをするのが効果的です。何日もおいてから答え合わせをしても効果は少ないです。また、一問ずつ答え合わせをするのも効果は少ないです。1ページごとなど、ある程度まとまりごとに答え合わせをするのが効果的です。

これは、誰かに教えてもらった(何かから知った)内容です。自分が実践してみて確かにそうだと感じています。だから、定期テストをすれば、できるだけ早く採点をして答案用紙を生徒に返してきましたし、ワークシートなどもできるだけ早く評価をして生徒に返してきました。

3 効果的なテスト勉強をより確かなものにするために

定期テストは学習したことがどれだけ定着しているかを見定めることがねらいです。一方で、テストやテスト勉強を活用して、生徒に力を付けさせるという考え方もできます。定期テストで良い点を取るにはどうすれば良いか、日頃から具体的に生徒たちに伝えたり、実践させたりします。定期テストで良い点が取れるような授業を組んだり、テスト勉強に取り組んだ結果、良い点が取れるというような仕組みを作っていけば、授業への集中度やテスト勉強への取り組み具合が上がっていきます。定期テストで良い点が取れば、次の学習意欲につながっていきます。

そのための手だての一例がワークの活用です。ワークからテスト問題の一部を‘そのまま出す’、‘選択肢の順番を入れ替えて出す’、‘問題の内容を一部替えて出す’ということを行います。テストの前にこのことを生徒に知らせておきます。答案用紙の返却時には、どの問題がワークからの出題かを知らせます。こうすることで、ワークに取り組むことで点が取れることが明確になります。ワークに丁寧に取り組んだ結果、良い点が取れることになります。点数が取れば、更にワークに取り組む意欲が高まります。教師側のねらいとしては、ワークに何度も取り組ませることで力をつけさせることです。

授業で取り組んだ学習課題についても同様です。学習課題をそのまま出す、内容を一部替えて出すと良いと思います。テスト前や答案用紙の返却時に、このことを伝えることは言うまでもありません。授業に集中して取り組めば点が取れるという経験をすれば、授業への集中度や学習意欲はますます上がっていきます。

4 おわりに

それぞれの先生方でご自身の勉強方法をぜひ生徒に紹介していただきたいものです。また、テスト問題の一部にはワークから出題するという実践もぜひしていただきたいです。